作業療法養成教育における教育観の日米間の差異
－概念生成の為の基礎的調査―

中島ともみ*
聖隷クリストファー大学

【はじめに】Wilcockら（2000）は，作業療法学生には，作業療法が地域社会に何が提供できるのかを示すことができるようになるために，作業療法の哲学を基礎とするカリキュラムや講義が必要だと述べている。一方で、Hooper（2013）らは，作業療法領域における教育学は、未だ初期段階にあるとも述べており，作業療法の為の教育学の発展が必要であるとした．作業療法士養成教育に携わる教育者の養成には，その基礎となる教育哲学の醸成は不可欠であるが，現状を把握するは少ない。

＊用語の説明＞教育観：佐藤らが単元の設定理由を決めるにあたり『「どんな事柄を，どんな教材（ 教材観 ）で，どんな学生（学生観）に，どう指導（指導観）するかについての考え方をはっきりさせること」の重要性を説いている．この教材観・学生観・指導観を統合したものを教育観とする』とした．

【目的】
作業療法教育に携わる教育者の教育観の現状を日米で調査し，世界作業療法士連盟の目指す教育のミニマムスタンダードと比較検討することから，日本の作業療法士教育における教育者の育成に必要な教育的視点を明らかにすることを最終目標としている．この最終目標を明らかにするため，本研究では，作業療法士養成教育者の教育観を問うアンケート項目作成のため，概念抽出とアンケート項目の作成を行うことまでを計画している．なお今回の報告では，米国におけるインタビュー調査の結果を報告する．

【方法】手法：半構成的インタビューにてデータを収集し，テキストマイニング手法にて分析を行った．

【対象】取り込み基準;作業療法教育に携わる9人,＞州にてOTとして登録されている，教員経験3年以上．

【結果】作業を捉えること，リーゾニング，アメリカにおける作業療法教育基準（Accreditation Council for Occupational Therapy Education ：ACOTE)にそっていることが抽出された．また，民族の多様性の背景にマイノリティーへの配慮，経験の浅い教員からは，教育学について学ぶ機会が必要であるとの意見も挙げられていた．

【倫理的配慮】 事前に十分なスケジュール調整を行い、1時間を超えない時間で終了できるように，インタビューガイドをインタビューの少なくとも 1 週間前に対象者にe-mailで送り，対象者が熟慮できる時間を確保した．インタビューは，タイマーをかけ時間を区切って実施された．インタビューガイドを研究協力依頼の際に開示し，質問内容を確認したうえで同意を依頼した．研究の研究への参加は，対象者の自由意思で参加も不参加も決定できること，また，説明後に辞退をしても，面談が始まってからの辞退であっても，今後に一切の不利益は生じないことを説明した．収集した基本情報は，研究に必要な内容のみとした．インタビューは英語で行われ，通訳者とは個人情報保護に関する誓約書を取り交わした．インタビューデータは電子データで記録し，データは個人が特定できない形でIDが振られ，データ化された会話内容の電子データは，特定のポータブルハードディスクに暗号化を設定して，保存したうえで，鍵のかかるロッカーで厳重に保管し，研究終了し研究結果が公開された後5年経過後に粉砕・破棄するとした．また，実施責任者へ提出する承諾書，個人が特定できる基礎データの紙媒体，研究に関わる書類も，研究責任者が鍵のかかる研究室ロッカーにて保管し，研究終了し研究結果が公開（2023 年 4 月を予定）されたのち5年後にシュレッダーで裁断のうえ責任をもって粉砕，破棄することとした．

倫理審査	■承認番号（18075 ）□該当しない	
利益相反	■なし　□あり（　　）	
発表状況	種　別	□著書　□論文　■学会発表　□紀要　□その他（ ）
	年月日	2019年　8月　日（□確定　■予定）